

所属 関西学院大学
氏名 室崎 登輝

【「復興とは」報告フォーマット】

1. あるべき「復興」とは何か、あなたはどのように考えますか。
① 被災の反省や教訓を生かして、②被災者にとっても、被災地にとっても、人類全体にとっても、③真に豊かな環境をつくりあげること
2. あなたの復興観におけるキーワード（最大 10 個前後）
平和と安全、理想の追求、被災の反省、価値観の転換、復興へのバネ、ビジョンの共有、被災者の自立、プロセスプランニング
3. あなたがそのような復興観を持つに至った背景について
<p>① 都市計画あるいは都市防災を志す者にとって、関東大震災の復興や戦災復興の事業、さらに戦後の都市大火の復興は教科書そのものであり、研究者としてのスタートはその学習から始まった。1972年刊行の玉置豊次郎の「関東大震災と復興事業」はバイブルであった。その影響を受けて、1973年に「歴史評論」に「関東大震災と都市計画」の論文を執筆。</p> <p>② 1976年の酒田の大火とその後の復興の調査への参画が、復興を自らの研究テーマとする大きな契機となるとともに、その直後に設置された国土庁と建設省の「震災市街地復旧指針策定委員会」の委員となって、復興の在り方を様々な角度から論議する機会を得た。その成果として、1986年に「都市の災害復元力に関する考察」という論文をまとめた。</p> <p>③ 北海道の遠藤明久先生が御存命のうちという友人の勧めで、昭和9年の函館大火の復興計画の研究を1987年から開始した。その後の一連の復興研究へと発展。飯田大火、広島戦災、名古屋戦災などの研究を1995年ごろまで手がけ、それを踏まえて雲仙と奥尻の復興計画に取り組みはじめたところで、阪神・淡路大震災が起きる。自画自賛になるが1988年「昭和9年の函館大火の復興計画に関する研究」は力作。</p> <p>④ 大震災以降は、神戸の復興に資するためということで、城崎、神戸戦災、鳥取大火などの研究に加えて、唐山、サンタクルーズ、メキシコ、台湾などの海外の復興研究にも着手。とくに唐山とサンタクルーズからは実に多くのことを学んだ。その成果を、地震後2年目の1998年に「復興都市計画論の再構成」という論文にまとめた。今日の私の考え方の基礎（事前復興、段階復興、物語復興など）がここに示されている。</p>
4. 上記を理解する上で参考となる文献
<p>都市の災害復元力に関する考察 1985 神戸市立大学 → 1986 関西学院大学</p> <p>復興計画について 新都市 49巻8号、1995.8</p> <p>復興都市計画論の再構成 地域共生のまちづくり、1998.5 新都市 新都市 本誌</p> <p>災害後の復興のあり方について・・・災害復興研究,1号、関学災害復興制度研、2009.3</p>